

C-79 福島県亘多方地区における衣生活の史的研究(第4報)

呉服商S家の仕立注文帳よりみた庶民の衣生活について

一大正中期を対象として - 県五米沢女矩大〇徳永幾久  
聖和字園矩大 五川口常左 雁部豪  
郡山女大政 尾馬舟子 佐藤吳

目的 前報に続き 呉服販売側の資料からみた庶民の衣生活の実態を、呉服商S家の萬  
控帳 仕立注文帳をとおして探り、仕立注文という行為を 呉服商はどのよに商売に結  
びつけ 庶民はどう利用したか 衣生活が社会化し 衣服が既製品化してゆく移行期の実  
態を把握しようとした。なお本報は改戦景気に恵れ 絹 綿 毛など品種 量において  
大飛躍をとけた大正8年を対象とした。

方法 大正8年のS家の萬控帳 仕立注文帳を対象とし、公用簿用書留帳 金銭出入帳  
その他文献も参考とし考察を行った。

結果 1) S家新年大売出し品目16種 組合せ製品などに当時の大衆商品も掌知できた。  
2) 改戦による好景気にもかかわらず 売出しは ネル膝巻 ガス銘仙の安価な流行品23%  
に止つた。3) 年間売上げ及数は 木綿62% (無地34 縞15%) 絹23% ガス98% モス65%  
で大盛況のモスも沈滞気味 4) 購入品種は、絹24種 木綿(無地18 縞8 柄1)など多様化  
の様相がみえた。5) 購入期は無地木綿9~11月、柄縞6月、絹は盆と正月と管理面の定着がみえ  
た。6) 仕立注文は年間392件で、上衣40.8% 下衣15% 下着23.7%; 袴着物 紋平シ  
ヤツ サル又が多い。以上の如き地方の生活状況に対応してS家は24軒の下請け業者を組  
織し仕立部とし、下着 紋平などの必需品を既製品化し グラス売りとし、更に切り売り  
による仕立附属品の低廉化を計り、及物売りから仕立上り品へと時勢に対応し、官公訂の  
洋服の膝当 尻当の補修を兼ね、新製品の宣伝など行い 仕立を武器とした既製品化 新  
製品化商法により 庶民の衣生活の向上を決めたのである。